

2020年総合生活改善の取り組みについての談話

1. 取り組み経過

<取り組みの意義>

○自動車総連は、1月9日の第87回中央委員会において、下記3つの取り組みの意義に基づき、自動車総連一体となって「賃上げによる人への投資」の実現に取り組むことを確認した。

- 「働く者の将来不安の払拭」と「日本経済の自律的成長」の実現
- 「生産性運動に関する三原則」の実践により、労働の質的向上に対する適正な成果配分を実現し、社会全体に波及させる
- 目指すべき賃金水準や働き方に向けて取り組むことで、全体の底上げ・底支え、格差是正を進展させる

<要求状況>

- 「個別賃金要求」は、中堅労働者（35歳相当）で673単組、若手労働者（30歳相当）で360単組と、「絶対額を重視した取り組み」に移行する前を大きく上回る状況である。
- 「平均賃金要求」は、多くの中小単組が大手を超えた要求を継続している状況にあり、その数は571単組（56.5%）となっている。また規模の小さい単組ほど要求額が高い傾向にある。
- 要求内容は、目指すべき賃金の絶対水準、あるいは自分達の職場状況を踏まえた賃金課題を基に、「自らの要求」の根拠を具体的に積み上げ、交渉を行っているケースが随所に見られる。また非正規雇用で働く仲間についても、例年同様に継続して賃金引き上げ要求を行っている。
- 「企業内最低賃金」は、協定の新規締結を要求した単組は133単組、平均要求額（単純平均）は164,360円と、昨年を大きく上回る状況である。
- 要求全体として、各単組が自動車総連の方針に則り、「目指すべき賃金水準」および「底上げ・底支え、格差是正の社会全体への波及」を実現するという強い思いが表れていると受け止める。

<交渉状況>

- 経営側は米中対立などによる市場の低迷や、自動車産業が大変革期にある中での賃上げによる中長期の競争力への影響、通期での業績悪化、また、組合員の意識・覚悟を踏まえた最適な「人への投資」のあり方を見極めるべく、厳しい態度を取り続けた。
- 交渉を通じ、各単組における賃金課題や職場課題に基づいた「賃上げによる人への投資」の必要性を主張し、議論を重ねてきた。その結果、労使の認識が一定程度深まったものの、新型コロナウイルスの影響が日を追うごとに深刻になったことによる業績への影響や円高・株安の進行などにより、交渉は日増しに難航を極めた。
- こうした厳しい状況を打ち破り、全ての単組の「最大限の回答」の引き出しに繋げるべく、自動車総連一体となって最終盤の交渉を追い上げていくことを確認した。

2. 主要 12 単組の回答状況

<月例賃金>

- 前述の通り厳しい交渉環境となる中、「自らの要求」の必要性と、組合員が果たしてきた労働の質的向上、そして自動車産業の大変革期を乗り越えていくという決意をもって全ての単組が回答指定日ギリギリまで交渉を押し込んできた。
- 各単組の踏ん張りにより、それぞれにとっての「最大限の回答」を引き出すことができた。また今次交渉においても「賃上げによる人への投資」の流れを継続できたことは、最大限の成果と受け止める。

<年間一時金>

- 業績見通しの厳しさに加え、直近での新型コロナウイルスの影響により日増しに交渉環境が悪化する中で、一年間の組合員の努力・頑張りと成果に報い、また組合員の安心・安定感の確保に繋がる年間での回答を引き出すべく、各単組が粘り強く最後の最後まで取り組んだ結果と受け止める。

<働き方に関する取り組み>

- 職場全体の生産性向上や恒常的な長時間労働の是正を図るべく、それぞれの労使の実態に即した議論が行われ、今後の具体的な取り組みにも確実に繋がっている。
- 自動車産業の大変革期を乗り越えていくため、こうした「働き方に関する取り組み」が通年の取り組みを通じてさらに前進することを期待する。

<非正規雇用で働く仲間に関する取り組み>

- 全ての単組において、時給や日給の有額での回答を引き出している。
- 同じ職場で働く仲間の意欲・活力および一体感の向上や、同一価値労働同一賃金の取り組み前進に繋がるなど、労働組合の社会的役割を果たしたものと受け止めている。

<現時点での受け止め>

- 総じて大変厳しい交渉環境の中、自動車産業の大変革期を乗り越えていくための価値ある回答を引き出すことができた。
- それぞれの単組による「目指すべき賃金水準」「目指すべき働き方」の実現に向けた取り組みにより、来年以降に繋がる着実な一歩を踏み出すことができたを受け止めている。
- こうした主要単組の「最大限の回答」を確固たる土台として、これから本格化していく中堅・中小単組の回答引き出しに向け自動車総連一体となって全力で取り組んでいくことで、自動車総連が目指す「底上げ・底支え、格差是正の社会全体への波及」を実現させていきたい。

3. 今後の進め方

- 今後、中堅・中小単組を中心に、車体・部品部門、販売部門、輸送部門、一般部門がヤマ場を迎えることになる。3月11日（水）から3月20日（金）の間で集中的に「最大限の回答」を引き出すとともに、自動車総連全体では3月末決着を目指し取り組み、遅くとも4月末までには全ての単組での決着を図っていく。